

一般財団法人 広島県環境保健協会 健康科学センター

事業年報

平成 30 年度（2018 年度）

目次

I.平成30年度事業計画の基本事項	1
II.協会運営	3
III.健康科学センター事業実績（分野別計画に係る特筆事項）	5
IV.社会貢献活動	14
V.関係団体事業への参加	20
VI.事業報告の附属明細書について	21

I. 平成 30 年度事業計画の基本事項

1. 基本理念

一般財団法人広島県環境保健協会の基本理念は、次のとおりである。

みんなの生命（いのち）をまもりたい。

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、
地域社会の発展に貢献します。

2. 第 1 次経営ビジョン

10 年後の協会のあるべき姿をまとめた、第 1 次経営ビジョン（25 年度から 34 年度）は次のとおりである。

《社会と共に》

■住民による公衆衛生活動を支援する環保協

県内の公衆衛生推進協議会をはじめとする各種団体の活動を積極的に支援し、住みよいまちづくりに取り組みます。

■健やかで安全・安心な暮らしを創る環保協

時代のニーズに対応した事業を通して、健康づくりと安全で安心して暮らせる生活環境づくりに取り組みます。

■社会に認められる環保協

広く環保協の存在意義を認知してもらうために、社会貢献活動や広報活動にも積極的に取り組みます。

《お客さまと共に》

■お客さまが感動するサービスを提供する環保協

常にお客さまの声に耳を傾け、感動していただけるサービスが提供できるよう真摯に取り組みます。

■確かな技術と豊富な知識でどのような声にも応えられる環保協

これまでに培った技術と知識に加え、新しい技術を取り入れながら、さまざまな要望にお応えできる体制づくりに取り組みます。

《職員と共に》

■職員が知恵と経験を共有している環保協

協会の目的を達成するために、職員一人ひとりの知恵と経験をチームで共有し、あらゆる問題の解決に取り組みます。

■一人ひとりがプロである誇りを持っていきいき働ける環保協

環保協の職員であることの自覚のもと、社会的責任を果たし、いきいき働ける職場環境づくりに取り組みます。

■公益事業を展開するための安定した経営ができる環保協

公益事業を展開するために、収益力の強化と時代の変化に耐えられる体制を整え、安定した経営に取り組みます。

3. 健康科学センター重点方針および戦略項目

28年度から30年度の3カ年度に取り組む事業の基本となる、各センターの第2期重点方針および30年度の戦略項目は次のとおりである。

(1) 重点方針

- ① 他機関との差別化を図り、お客さまに選んでいただける健診機関を目指す。
- ② ミス・クレームを分析し、発生を抑制する。
- ③ 施設健診と巡回健診の増収を図る。
- ④ 原価管理により受託事業を再検討する。
- ⑤ 他センターと連携し、商品・サービスをPRする。

(2) 戦略項目

- ① 協会の強みを生かした顧客の囲い込みとレディースデイの創設等による新規顧客の獲得
- ② 胃カメラをはじめとする1日受診者枠の増加
- ③ 新商品の開発およびオプション検査の増加を含めた健診単価アップとオプション検査実施団体数増
- ④ 原価管理システムの活用による利益管理の徹底と業務の改廃を含めた業務効率向上による事業収支差額の確保
- ⑤ 事業拡大と改善を目的としたドックフロア改修
- ⑥ ホームページの活性化による顧客サービスの向上
- ⑦ ミス・クレーム発生防止対策の確立
- ⑧ 業務効率向上の視点からのセンター内所掌業務の見直しと組織再編
- ⑨ 他センターとの連携(経営・地域・環境)

II. 協会運営

1. 評議員および役員

(1) 評議員の就任状況

平成 31 年 3 月現在

区 分	氏 名	所属団体職名
評 議 員	木 原 敏 博	公益財団法人広島県獣医師会会長
〃	井 上 浩 一	中国新聞社常務取締役営業本部長
〃	竹 永 靖 正	中国税理士会広島西支部顧問
〃	鈴 木 勝 治	公益財団法人公益法人協会副理事長
〃	田 中 純 子	広島大学大学院教授 (医歯薬保健学研究科)
〃	隅 井 浩 治	済生会広島病院院長
〃	渡 邊 弘 司	一般社団法人広島県医師会常任理事
〃	岡 田 光 正	放送大学副学長
〃	中 越 信 和	広島大学大学院特任教授 (国際協力研究科)
〃	今 岡 務 幸	広島工業大学教授 (地球環境学科)
〃	中 野 宏 幸	広島大学大学院教授 (生物圏科学研究科)
〃	栗 栖 孝 子	広島県食生活改善推進員協議会会長
〃	梅 澤 惠 子	大崎上島町公衆衛生推進協議会会長
〃	村 田 吉 三	一般社団法人尾道市公衆衛生推進協議会理事長
〃	箕 田 英 紀	三次市公衆衛生推進協議会会長

※評議員全 15 人、定足数 8 人 (過半数)。選任数範囲は 10 人から 17 人

(2) 役員の就任状況

平成 31 年 3 月現在

区 分	氏 名	所属団体職名
理 事	佐 藤 均	一般財団法人広島県環境保健協会理事長
〃	中 元 啓 三	一般財団法人広島県環境保健協会常務理事
〃	山 木 戸 道 則	中国税理士会税理士
〃	角 倉 博 志	一般財団法人ひろぎん経済研究所理事長
〃	平 野 勝 正	広島商工会議所相談員、中小企業診断士、 デファクト・コンサルティング代表
〃	宮 本 英 暉	庄原市公衆衛生推進協議会前会長
〃	今 津 俊 昭	廿日市市公衆衛生推進協議会会長
〃	園 尾 俊 昭	福山市公衆衛生推進協議会会長
〃	土 本 敏 明	呉市公衆衛生推進協議会理事
監 事	河 野 隆	広島総合法律会計事務所公認会計士
〃	宮 宗 弘 光	福山市公衆衛生推進協議会副会長

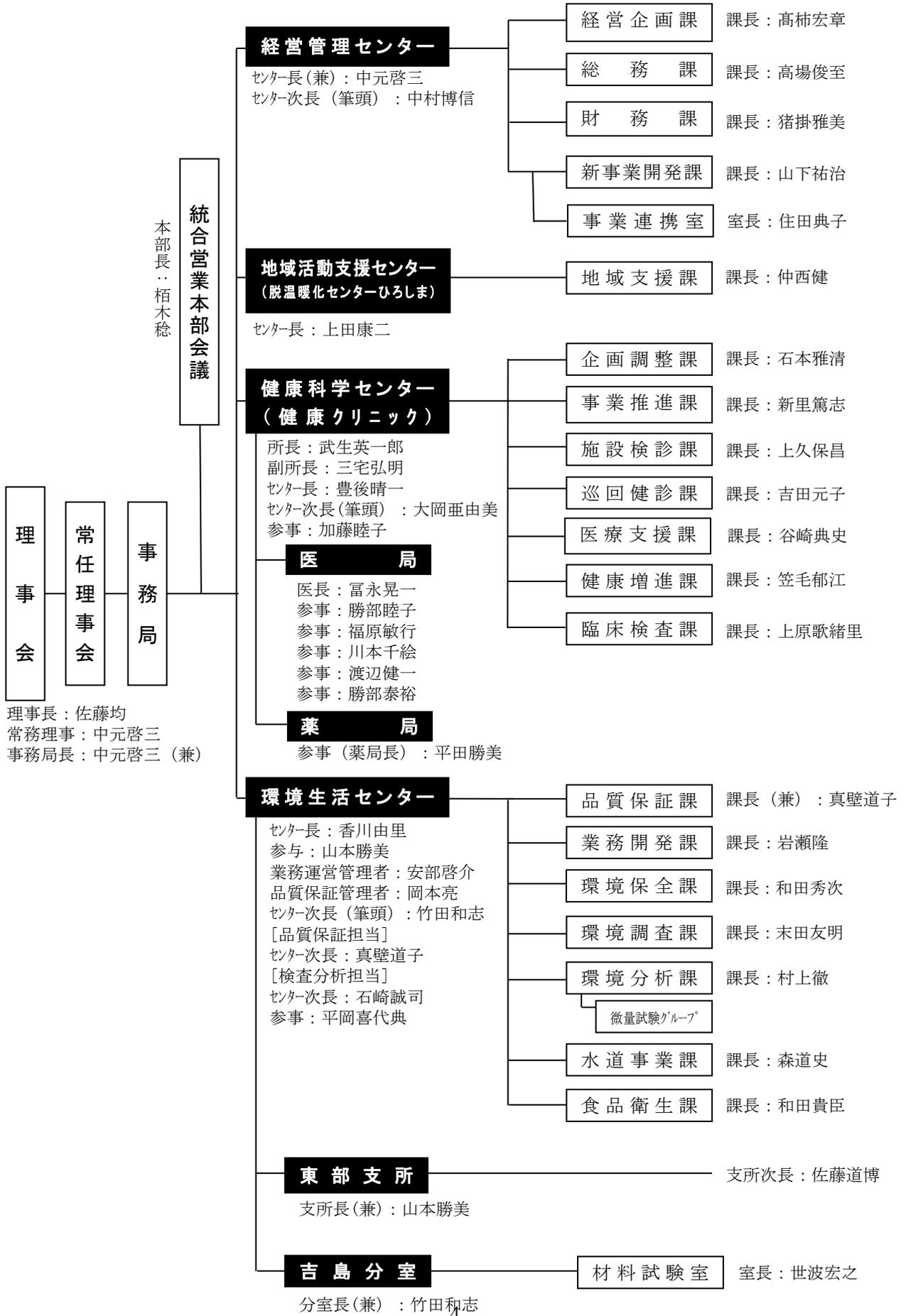
※理事全 9 人、定足数 5 人 (過半数)。選任数範囲は 7 人から 12 人

※監事全 2 人、選任数範囲は 2 人から 3 人

2. 事務局組織

平成 30 年度は、経営管理センター及び環境生活センターの組織改編を行った。平成 31 年 3 月 31 日現在の職員数は 235 人であり、組織図は次頁のとおりである。

【事務局組織図（平成 31 年 3 月 31 日現在）】



Ⅲ. 健康科学センター事業実績（分野別計画に係る特筆事項）

1. 禁煙支援事業

(1) 脱煙（禁煙）外来

① ねらい

人間ドック受診者およびその他禁煙希望者を対象に、保険診療・自由診療で禁煙補助薬とカウンセリングによる禁煙指導を実施し、禁煙を支援する。

② 実績

平成 30 年度新規受診者 2 人、脱煙（禁煙）外来実施者 延べ 224 人

(2) 禁煙セミナー

① ねらい

現在喫煙している全組合員を対象に、肺年齢検査や呼気中一酸化炭素濃度測定検査を行い、自身の呼吸機能状態を知り、禁煙への動機付けをはかる。また、禁煙に関する情報を提供し、禁煙準備期の組合員に対して個別面談と電話フォローによる禁煙支援を行い、喫煙率の減少を目指す。

② 実施内容

区 分	コース		内 容
初 回	情報提供	標準	検査（肺年齢測定・呼気中 CO 濃度測定）
			集団セミナー【40 分】
個別面談（希望者のみ）【30 分/人】			
2 週間後・1.5 ヶ月後	電話フォロー【10 分/人】		
6 ヶ月後		評価・アンケート【郵送】	

③ 実施状況

《平成 30 年度 合計：13 団体》

コース	実施者数（人）
情報提供（集団セミナー）	96
標準コース	7

2. 特定保健指導

(1) ねらい

メタボリックシンドロームを対象に、生活指導（集団または個別）、通信を利用した継続支援による行動変容を促し、減量を達成することを目的とした特定保健指導を健康保険組合、共済組合との契約により来所（人間ドック当日、後日）および巡回で実施した。

(2) 対象

下欄抽出項目の(i)の条件を満たし、(ii)から(iv)のうち2項目以上に該当する方（ただし、治療中の方は原則対象から除外する）となる。

抽出項目	内 容
(i) 腹囲 BMI（体格指数）	腹囲男性 85cm 以上、女性 90cm 以上 または BMI25.0 以上
(ii) 血糖	空腹時血糖 100～125mg/dl 健診時に随時血糖の場合 HbA1c 5.6～6.4%
(iii) 収縮期血圧 拡張期血圧	最高血圧 130～159mmHg または 最低血圧 85～94mmHg
(iv) 高トリグリセライド 低 HDL コレステロール	TG150mg/dl 以上 または HDL-c 40mg/dl 未満

(3) 特定保健指導 A 事業

① 巡回型特定保健指導

ア. 実施内容 (平成 30 年 8 月～)

◎積極的支援

区 分	内 容
初 回	個別指導【30～40分/人】
3 ヶ月以上の 継続的な支援	支援形態：電話・メール・郵送（1M・2M・3M・4M） 支援レポートの送付
6 ヶ月後	評価（電話・メール・郵送による通信を利用）

◎動機付け支援

区 分	内 容
初 回	個別指導【30～40分/人】
3 ヶ月後	評価（電話・メール・郵送による通信を利用）

イ. 目標

- 1) メタボリックシンドロームの改善（血液データの正常化、体重 3% 減量、腹囲 3 cm 減少）
- 2) 生活習慣の見直しと改善

ウ. 実施状況

《平成 29 年度 合計：25 団体、135 グループ》

支 援	初回指導実施者数（人）	最終評価実施者数（人）
積極的	358	353
動機付け	162	161

《平成 30 年度 合計：18 団体、84 グループ》

支 援	初回指導実施者数（人）	最終評価実施者数（人）
積極的	145	—
動機付け	82	—

《特定保健指導実施団体数および参加者数の推移》

	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
実施団体数	21	27	24	25	18
グループ数	104	112	120	135	84
参加者数（人）	491	454	519	520	227

② 受診勧奨

ア. 事業内容

健診結果で糖尿病要治療者のうち、ハイリスクかつ医療機関未受診である者（HbA1c 7.0% 以上または空腹時血糖 130mg/dl 以上）に対して保健指導と受診勧奨を行い、疾病の早期治療・改善を目指すことを目的に実施した。

イ. 実施内容

区 分	内 容
初 回	個別指導【30分/人】
1・2 ヶ月後	通信支援
3 ヶ月後	評価（個別指導）【30分/人】

ウ. 目標

- 1) 医療機関への受診勧奨を行い、適切な治療行動へとつなげる
- 2) セルフマネジメント能力の向上

エ. 実施状況

《平成 30 年度 合計：3 団体》

支 援	初回指導実施者数（人）	最終評価実施者数（人）
受診勧奨	6	6

《平成 29 年度 合計：4 団体》

支 援	初回指導実施者数 (人)	最終評価実施者数 (人)
受診勧奨	5	5

(4) 特定保健指導 B 事業

① 実施内容

◎積極的支援

区 分	内 容
初 回	個別指導【30～60分/人】
3ヵ月以上の 継続的な支援	支援形態：メール・郵送（2W・1M・2M・4M・5M） 個別指導【30分/人】（3M）
6ヵ月後	評価（郵送による）

◎動機付け支援

区 分	内 容
初 回	個別指導【30～60分/人】
3ヵ月後	評価（郵送による）

② 目標

- 1) メタボリックシンドロームの改善（腹囲または体重の減量）
- 2) 生活習慣の見直しと改善

③ 実施状況

《平成 30 年度実施状況》

巡回場所	初回実施日	支 援	参加者数 (人)	
			小 計	計
事業所 A	12月19日～20日、1月22日、2月4日、 2月19日、2月25日、3月7日	積極的	16(4)	40(7)
		動機付け	24(3)	
事業所 B	12月21日、1月25日、2月15日	積極的	10(4)	15(6)
		動機付け	5(2)	
			小 計	計
事業所 C	12月17日、12月19日～21日、1月11日、 1月16日、1月17日、1月28日～31日、 2月4日～5日、2月13日、2月15日、2 月18日、2月19日～22日、2月25日～3 月1日、3月4日～6日、3月8日、3月11 日/延べ40日	積極的	89(74)	159(133)
		動機付け	70(59)	
合 計		積極的	115(82)	214(146)
		動機付け	99(64)	

* () 内は H29 の実績

(5) 特定保健指導 C 事業

① 実施内容

◎積極的支援

区 分	内 容
初 回	個別指導【20分/人】

(続き)

区 分	内 容
3ヵ月以上の 継続的な支援	支援形態：メール・郵送（2W・1M・5M） 電話（2M・4.5M） 個別指導【20分/人】（3M）
6ヵ月後	評価（個別指導）【20分/人】

◎動機付け支援

区 分	内 容
初 回	個別指導【20分/人】
3ヵ月後	郵送・電話・メール
6ヵ月後	評価（個別面接）【20分/人】

② 目標

- 1) メタボリックシンドロームの改善（腹囲または体重の減量）
- 2) 生活習慣の見直しと改善

③ 実施状況

《平成 30 年度》

実施時期	初回実施日	支 援	参加者数（人）	
			小 計	計
第 1 期	10 月 15 日、22 日、23 日、25 日	積極的	5 (1)	21 (22)
		動機付け	16 (21)	
第 2 期	12 月 4 日、7 日、11～14 日	積極的	2 (0)	35 (33)
		動機付け	33 (33)	
第 3 期	1 月 16 日～18 日、21 日～22 日、28～29 日	積極的	4 (2)	29 (45)
		動機付け	25 (43)	
第 4 期	3 月 19 日～20 日、3 月 23 日、3 月 26 日～30 日	積極的	2 (9)	39 (48)
		動機付け	37 (39)	
合 計		積極的	13 (12)	124 (148)
		動機付け	111 (136)	

* () 内は H29 の実績

(6) 特定保健指導 D 事業

① 実施内容

◎積極的支援

区 分	内 容
初 回	個別指導【20 分/人】
3 ヶ月以上の継続的な支援	個別指導【20 分/人】（2W・3M） 支援形態：電話（1M・2M・4M）
6 ヶ月後	評価（個別指導）【20 分/人】

◎動機付け支援

区 分	内 容
初 回	個別指導【20 分/人】
6 ヶ月後	評価(個別面接)【20 分/人】

② 目標

- 1) メタボリックシンドロームの改善（腹囲または体重の減量）
- 2) 生活習慣の見直しと改善

③ 実施状況

《平成 29 年度》

実施時期	初回実施日	支 援	参加者数（人）	
			小 計	計
第 1 期	11 月 22 日	積極的	2	4
		動機付け	2	
第 2 期	2 月 21 日	積極的	0	3
		動機付け	3	
合 計		積極的	2	7
		動機付け	5	

平成 31 年 8 月 22 日に最終評価を完了し、当事業は平成 29 年度で終了した。

(7) 特定保健指導 E 事業（来所型特定保健指導（人間ドック受診後））

① 実施内容

健診受診 → 検査・問診 → 階層化 → 受診者案内 → 初回指導

② フロー

◎積極的支援

区 分	内 容
初 回	個別指導【20分/人】
3ヵ月以上の 継続的な支援	支援形態：メール・郵送（2W・1M・2M・4M・5M） 個別指導【20分/人】（3M）
6ヵ月後	評価（電話やメールなど通信等を利用）

◎動機付け支援・動機付け支援相当

区 分	内 容
初 回	個別指導【20分/人】
3ヵ月後または6ヵ月後	評価（電話やメールなど通信等を利用）

*評価時期は契約により異なる。

③ 実施状況

《平成30年度》

単位：人

区 分	団体数	動機付け支援・ 動機付け支援相当	積極的支援	合 計
事業所 A	7 (5)	10 (10)	13 (5)	23 (15)
事業所 B	6 (5)	30 (19)	8 (7)	38 (26)
事業所 C	1 (1)	10 (1)	3 (1)	13 (2)
事業所 D	1 (1)	98 (33)	74 (33)	172 (66)
総 計	15 (12)	148 (63)	98 (46)	246 (109)

* () 内は H29 の実績

3. 講師派遣

(1) 実施内容

実施月日	講演名	実施内容	参加者数
6月7日	平成30年度公衆衛生 推進協議会・専門研修	「広島県がん検診推進員養成研修」 担当：品川保健師	5人
9月29日	健康寿命延伸研修会	「薬局業務に活かせるメタボリック シンδροームの予防について」 担当：松本保健師	90人
10月27日	骨密度測定	骨密度測定結果説明 担当：笠毛管理栄養士	122人
11月25日	介護の日フェスタ in ひろしま	骨密度測定結果説明 担当：品川保健師	107人
1月20日	ひろしま 42.195km リレーマラソン	肺年齢測定 担当：藤江保健師	102人
	合 計	5回	延べ426人
	(合 計)	(5回)	(286人)

* () 内は H29 の実績

4. 健康教育に係る事業 ～健康相談事業～

(1) ねらい

健康診断や人間ドック受診後の結果を正しく理解し、改善すべき目標を明確化して行動変容への動機づけや相談を行い、対象者の健康増進に資する。

(2) 実施内容

① 二次検査（職員定期健康診断再検査）

単位：人

内 容	医師、看護師（保健師）による事業所訪問（全15事業所、各月1回） 再検査の実施（一次健診後の二次検査）	
項 目	事業所	受診者数
実施結果	事業所 A	43(33)
	事業所 B	120(126)
	事業所 C	91(65)
	事業所 D	154(126)
	事業所 E	150(154)
	事業所 F	130(146)
	事業所 G	81(95)
	事業所 H	163(126)
	事業所 I	21(19)
	事業所 J	18(31)
	事業所 K	10(23)
	事業所 L	29(16)
	事業所 M	29(22)
	事業所 N	26(15)
	事業所 O	15(17)
合 計	15事業所のべ135回	1,080(1,014)
報 告	各事業所とも毎月1回の二次検査を実施している。二次検査の実施数は、上の表に示すとおりである。なお、5月・6月・7月は二次検査を実施していない。	

*（ ）内はH29の実績

5. 人間ドックおよび診療

(1) ねらい

健康保険・共済組合被保険者、個人・団体会員を対象とした多項目総合健診。検査項目の組み合わせにより各種コースを設定し、疾病の早期発見、早期治療に努める。

また、生活習慣病治療のシステム化により、指導管理を実施する。

(2) 実施内容

① 人間ドック

単位：人

宿泊 ドック	一日ドック			半日ドック				受診者総数
	Sコース	Aコース	小計	Bコース	Cコース	Dコース	小計	
328 (322)	3,196 (3,118)	1,357 (1,264)	4,553 (4,382)	2,415 (2,653)	1,516 (1,229)	5,727 (5,361)	9,658 (9,313)	14,539 (14,017)

*（ ）内はH29の実績

② その他の検診・検査

単位：人

子宮がん 4,136 (4,255)	マンモグラフィ 3,621 (3,651)	乳腺エコー 1,481 (1,469)	脳ドック 242 (301)	肺ドック 83 (115)
腹部エコー 9,279 (9,024)	骨密度 1,611 (1,312)	胃カメラ 2,870 (2,804)	更年期ドック 38 (64)	PET 9 (6)

*（ ）内はH29の実績

③ 事後指導

単位：回

項 目	実施内容	実施数
健康管理指導	人間ドックの診察後、検査結果の説明、必要な二次検査の内容や受診方法、生活改善ポイントを個別に指導	5,559(5,943)
診療栄養指導	人間ドック受診後再来した受診者に対して保険診療で栄養分析、栄養処方、指導を実施	222(83)

項目	実施内容	実施数
運動負荷試験 運動指導	主に宿泊ドックの男性受診者に自転車エルゴメーターによる運動負荷試験を実施し、個々の生活に応じた運動処方を作成	0 (105)
見える化健診 結果説明	ファン・ドウ・フィットネスの会員に対して、基本チェック（計測・体力測定・骨密度測定）、ロコモ度チェック（最大一歩幅・ファンクショナルリーチ検査）、オプション検査を実施。結果説明と運動支援アドバイスを実施 *FDF 三篠店閉店に伴い9月で終了	4 (13)
合計		5,785 (6,144)

* () 内は H29 の実績

6. 特定外来診療（生活習慣病改善プログラム）

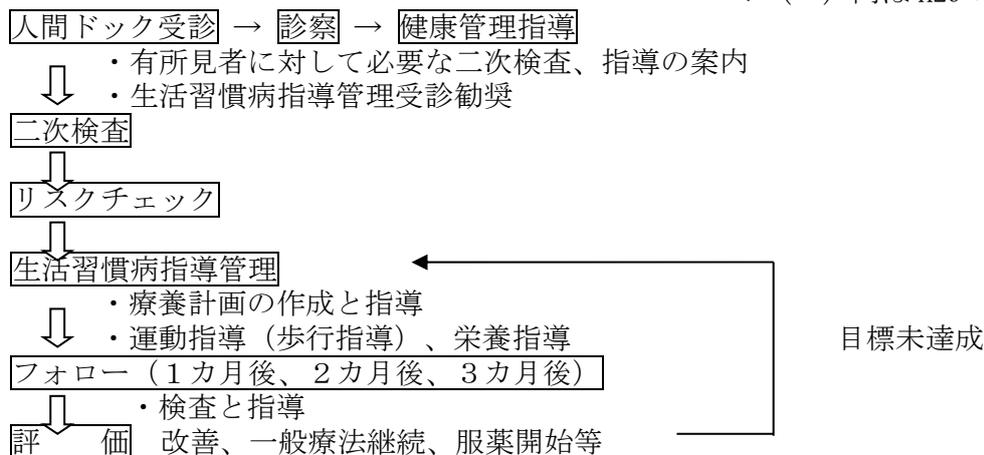
(1) ねらい

健診事後フォローとして、個々に応じた療養計画の作成と指導により、生活習慣病の早期治療・予防を図る。

(2) 実施内容

有所見者に対する 事後措置	生活習慣病のリスク者に対して、検査データ、家族歴、生活習慣も含めたリスクチェックを行い、個々に応じた療養計画を作成し指導する。基本的に計画は3～4カ月を1クールとし、この期間内に目標が達成できるようにほぼ1カ月ごとに指導し、最終月に評価のための検査を実施する。目標が達成できない場合は、再度計画を作り直し、指導を強化し正常化を目指す。		
実施数	プログラム作成（新規）	プログラム作成（再）	合計（件）
	60 (32)	23 (31)	83 (63)

* () 内は H29 の実績



7. 精密検査

単位：人

検査項目		実施件数	検査項目		実施件数	検査項目	実施件数	
内視鏡 検査	上部	253 (309)	糖負荷試験		2 (4)	超音波 検査	乳腺	7 (22)
	下部	274 (351)	便潜血検査		31 (74)		腹部	287 (168)
X線 検査	胸部単純	32 (24)	尿一般検査		281 (231)		心臓	110 (92)
	マンモグラフィ	4 (0)	細胞診検査	尿	10 (31)		甲状腺	178 (155)
	DXA	46 (47)		喀痰	1 (0)		頸動脈	161 (142)
	その他	10 (14)	心電図検査		19 (33)		ドプラ	3 (2)
CT 検査	頭部撮影	0 (5)	ホルター心電図検査		7 (7)	合計	2,159 (2,192)	
	頭部造影	0 (0)	睡眠ポリグラフィ (PSG)		57 (38)			
	躯幹撮影	368 (418)	肺機能検査		1 (4)			
	躯幹造影	9 (9)	脈波測定		8 (12)			

* () 内は H29 実績

8. 職域および地域保健健診

(1) 定期健康診断および特殊健診

単位：人

事業内容	項目	受診者数
職域の労働者を対象とした労働安全衛生法に基づく健康診断	一般定期健康診断	33,253(34,172)
	雇入時健康診断	717(551)
じん肺・有機溶剤・鉛・電離放射線・特定化学物質等 特殊健康診断		8,159(7,109)
VDT・騒音・深夜業他行政指導に基づく健診、B型肝炎等の特定業務健診		15,237(14,046)

* () 内は H29 の実績

(2) 特定健康診査

単位：人

事業内容	実施件数	受診者数
地域住民を対象とした高齢者の医療の確保に関する法律に基づく健康診断	来所Gコース	159(179)

* () 内は H29 の実績

(3) 大腸がん検診（便潜血検査）

単位：人

事業内容	実施件数	受診者数
地域住民・職域労働者を対象に、免疫法による便潜血反応検査	370 事業所 (400 事業所)	9,172(9,514)

* () 内は H29 の実績

(4) 胃がん検診（ペプシノーゲン検査）

単位：人

事業内容	実施件数	受診者数
地域住民・職域労働者を対象に、血液による胃がん検診（ペプシノーゲン検査）	127 事業所 (150 事業所)	1,928(2,353)

* () 内は H29 の実績

(5) 前立腺がん検診（PSA検査）

単位：人

事業内容	実施件数	受診者数
地域住民・職域労働者を対象に、血液による前立腺がん検診（PSA検査）	93 事業所 (93 事業所)	486(486)

* () 内は H29 の実績

(6) 肝炎検診

単位：人

事業内容		実施件数	受診者数
地域住民・職域労働者を対象に肝炎対策の検診を実施。検査内容は、HCV 抗体、HBs 抗原・抗体検査等	B型 肝炎	83 事業所 (84 事業所)	797(1,365)
	C型 肝炎	41 事業所 (44 事業所)	219(808)

* () 内は H29 の実績

9. 学校保健に係る健診

事業内容				
幼稚園、小中学校、高等学校の児童・生徒の諸検査および大学生の健康診断				
尿検査	寄生虫卵検査	蟯虫卵検査	心電図検査	学生健診
15,952 件 (16,155 件)	0 件 (0 件)	654 件 (661 件)	4,919 件 (4,905 件)	7,756 人 (7,411 人)

* () 内は H29 の実績

10. 臨床検査技師法（登録衛生検査所）に基づく検査分析事業

単位：件

事業内容	事業所数	検査件数
食品衛生法、労働安全衛生法に基づく食品取扱い従事者、給食従事者を対象に、腸内細菌（赤痢・腸チフス・パラチフス・その他のサルモネラ）の保菌検索	1,133 (1,032)	21,459 (26,140)
腸管出血性大腸菌O157、病原性大腸菌群 ほか	2,644 (3,180)	15,527 (20,987)
合計	3,777 (4,212)	36,986 (47,127)

* () 内は H29 の実績

1 1. 悪性腫瘍発見数

平成 30 年度に日本人間ドック学会に報告したがん症例数

単位：件

種 別	件 数	種 別	件 数
食道・胃・十二指腸	11(18)	前立腺・男性性器	2(1)
肺・胸膜	6(8)	膵臓	2(0)
甲状腺	4(6)	乳腺	7(6)
大腸・肛門	12(9)	腎臓がん	0(0)
子宮・女性性器	3(0)	膀胱がん	0(0)
胸部 NOS・縦隔・気管	0(0)	肝臓	0(0)
血液・造血器・リンパ節	0(0)		
合 計		47(48)	

* () 内は H29 の実績

IV. 社会貢献活動

1. 協会主体活動

(1) 天満川左岸美化活動

毎週1回、センター交代制で当協会周辺の河川敷および歩道の散乱ごみを回収した。

今年度は、天満川護岸工事があったため、6月から3月までは実施できなかったため、回収ごみ量が大幅減となった。

実施回数	概 要	参加人数	回収ごみ量
13回	場 所：横川新橋～中広大橋の区域 時 間：主に8:30～9:00	延べ72人 (延べ147人)	13.20kg (49.45kg)

* () 内は29年度実績

(2) 『天満川・自然観察&ウォーキングマップ』を活用した自然観察会

7月の豪雨災害及び天満川護岸工事が長期に亘り実施されたことから、平成30年度の開催は見送った。

実施回数	概 要	参加人数
なし	—	(61人)

* () 内は29年度実績

(3) ごみゼロ・クリーンウォーク

きれいなひろしま・まちづくり市民会議主催の「ごみゼロ・クリーンウォーク」に構成団体として参加し、指定コースの散乱ごみを回収した。参加人数は、協会役職員とその家族である。

実施回数	概 要	参加人数
1回	日 時：平成30年6月3日(日) 10:30～12:20 コース：公衆衛生会館⇒横川新橋⇒三篠橋 ⇒旧市民球場跡地 内 容：河川敷や遊歩道の散乱ごみなどを回収	104人 (120人)

* () 内は29年度実績

(4) 平和記念公園一斉清掃

特定非営利活動法人広島市公衆衛生推進協議会および広島市主催の「平和記念公園一斉清掃」に参加し、所定場所の散乱ごみなどを回収した。

実施回数	概 要	参加人数
1回	日 時：平成30年8月1日(水) 7:10～8:00 場 所：平和公園敷地内 内 容：指定された範囲の散乱ごみなどを回収	45人 (52人)

* () 内は29年度実績

(5) 献血活動

協会職員と近隣の住民を対象として400ml献血を実施した。献血は、広島県赤十字血液センターの協力により、献血バスで行った。

実施回数	概 要	申込人数	実施人数
第1回	日 時：平成30年8月8日(水) 14:00～16:30 場 所：公衆衛生会館	26人(32人)	22人(25人)

実施回数	概 要	申込人数	実施人数
第2回	日 時：平成31年1月30日(水) 14:00～16:00 場 所：公衆衛生会館	23人(24人)	17人(20人)
	合 計	49人(56人)	39人(45人)

* () 内は29年度実績

(6) 環境協前天満川クリーン作戦

水環境の改善と環境美化意識の向上をねらいに、近隣の住民や事業所と協力して河川内と遊歩道の清掃を行った。

実施回数	概 要	参加人数	回収ごみ量
1回	日 時：平成30年11月3日(土) 10:00～12:30 場 所：横川新橋～中広大橋の区域 天満川河川内および右岸・左岸の遊歩道 内 容：天満川の右岸・左岸の遊歩道に捨てられている散乱ごみの回収、河川内に捨てられている散乱ごみの回収	92人 (97人)	軽トラック 約3台分

* () 内は29年度実績

(7) 里海と里山づくり体験学習会

協会創立60周年を記念し、東広島市内の小学生の親子を対象に、東広島市、教育委員会、漁業協同組合、森林組合の後援をいただき、東広島の里海と里山の現状とその魅力を親子で体験する学習会を開催した。

この学習会は、全7回開催し、アサリが育つ豊かな干潟を目標とした里海づくり体験を4回、施肥技術の利用と流域等での間伐材の利用や植林による里山整備体験を3回のシリーズで実施している。同市の小学校に募集したところ多くの参加申し込みがあり、そのうち33組74名の親子を選定し、参加して頂いた。

平成30年5月13日に第7回(最終回)を開催し、2年にわたる体験学習会を無事修了した。

実施回数	概 要	参加人数
第1回	日 時：平成29年6月24日(土) 12:00～15:00 場 所：東広島市安芸津町 木谷地域センター、干潟 内 容：あぜ板の設置とアサリの放流、施肥材の散布、食害防止網の設置	32組72人
第2回	日 時：平成29年7月22日(土) 13:30～16:00 場 所：東広島市安芸津町 木谷地域センター、干潟 内 容：干潟生物、海岸生物の採集、引き網による魚介類の採集とその種類のまとめ	22組48人
第3回	日 時：平成29年8月19日(土) 9:30～12:00 場 所：東広島市吉川 長寿の森 内 容：長寿の森の植物相と里山の重要性についての解説	21組47人
第4回	日 時：平成29年9月2日(土) 10:00～16:00 場 所：東広島市安芸津町風早荷揚場、木谷地域センター 内 容：間伐材による漁礁の製作、漁礁の効果についての座学	27組61人

実施回数	概 要	参加人数
第5回	日 時：平成29年10月28日(土) 13:20～15:30 場 所：東広島市安芸津町 安芸津町漁業協同組合および カキ打ち場 内 容：瀬戸内海の特徴、カキ養殖など安芸津の漁業につ いて、カキ打ち体験	22組 49人
第6回	日 時：平成30年3月24日(土) 10:00～12:00 場 所：東広島市吉川 長寿の森 内 容：山林の荒廃と山の管理の重要性について、賀茂森 林組合に指導によるスーパー松5株/人の移植、植 林記念の看板の設置と集合写真	22組 46人
第7回 (最終回)	日 時：平成30年5月13日(日) 14:00～16:00 場 所：東広島市安芸津町 木谷地域センター 内 容：第1回で放流したアサリの計測、第4回で製作し た間伐材漁礁に集まる魚のビデオ視聴、参加者へ の修了証書・記念品の授与、集合写真の撮影	21組 48人

2. センター主体活動

(1) 広島医療ネットワーク (メネット広島)

① 概要

広島県内の医師および大学関係者がインターネットを通じて医療情報の交流を促進し、地域医療の活性化と医療資源の活用を図ることを目的としている。当協会は、事務局として運営にあたっている。

② 実施内容

日 時	定例運営委員会・研修等	参加者数
4月27日	第21回MENεT広島定例総会	10人
7月13日	第170回MENεT広島定例運営委員会	6人
8月30日	第171回MENεT広島定例運営委員会	6人
9月14日	第172回MENεT広島定例運営委員会	5人
10月12日	第173回MENεT広島定例運営委員会	6人
11月30日	第174回MENεT広島定例運営委員会	6人
11月30日	MENεT広島研修会 テーマ：孤独死 【講師】千葉大学附属法医学教育研究センター 浦邊 朱鞠 先生	7人
2月2日	第12回田坂メモリアルレクチャー1日目 テーマ：ロジックで進めるリウマチ・膠原病診療 【講師】帝京大学第三内科講師 萩野 昇 先生	48人
日 時	定例運営委員会・研修等	参加者数
2月3日	第12回田坂メモリアルレクチャー2日目 テーマ：感染症プラチナ特講2019 【講師】埼玉医科大学感染症准教授 岡 秀昭 先生	48人
3月8日	第175回MENεT広島定例運営委員会	4人
計 10 回		146人

(5) 広島県禁煙支援ネットワーク

① 概要

禁煙支援ネットワークは、広島県内の医療保健ならびに学校教育関係に従事する人たちの広範な連携によって、たばこの害から県民の健康を守ることを目的としており、当協会は事務局として運営にあたっている。

② 実施内容

実施日	会議・研修等	出席者人数
8月10日	第31回運営委員会（於：広島県環境保健協会）	8人
10月13日	第32回運営委員会（於：広島県薬剤師会館）	8人
10月13日	<p>広島県禁煙支援ネットワーク公開講座（第16回研修会） （於：広島県薬剤師会館）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パネル展示 ファイザー株式会社、グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社 ●基調講演Ⅰ「タバコ病といわれる COPD のこぼれ話」 広島県禁煙支援ネットワーク運営委員長 川根 博司 ●基調講演Ⅱ「受動喫煙防止～自分の命は自分が守る」 常翔学園広島国際大学 看護学部看護学科 准教授 藤井 紀子 ●情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ① 『「福山市子ども及び妊婦を受動喫煙から守る条例」施行の経緯について』 一般社団法人福山市医師会 喫煙対策担当理事 長谷川 利路 ② 『一事業所における喫煙と健康についての考察 3年目』 一般社団法人広島県歯科医師会 地域保健部常任委員 藤田 裕樹 ③ 『ニコチンバスターズの熱き戦い』 中国電力株式会社 中電病院 横路 聖加 ④ 『薬剤師による禁煙支援活動』 広島県薬剤師会専務理事 村上 信行 ⑤ 『広島県の受動喫煙防止対策について』 広島県健康福祉局がん対策課 課長 山口 浩央 ●特別講演「タバコ対策最新情報～改正健康増進法、三次喫煙、加熱式タバコの構造と対策～」 産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学研究室 教授 大和 浩 	120人
計 3 回		136人

3. 災害復興支援

平成 30 年 7 月 6 日に発生した西日本豪雨災害の復興支援として、次のことに取り組んだ。

(1) ボランティア活動

ボランティアが少ない平日を中心に、1日に3～4人の職員が、交代で被災地のボランティア活動に参加した。

日 時	概 要	参加者数
7月19日	坂町災害復旧ボランティア	5人
7月20日	坂町災害復旧ボランティア	5人
7月21日	坂町災害復旧ボランティア	6人
7月23日	坂町災害復旧ボランティア	4人
7月24日	坂町災害復旧ボランティア	3人
7月25日	坂町災害復旧ボランティア	3人
7月26日	坂町災害復旧ボランティア	4人
7月27日	坂町災害復旧ボランティア	2人
7月31日	坂町災害復旧ボランティア	4人
8月1日	坂町災害復旧ボランティア	4人
8月2日	東広島市災害復旧ボランティア	7人
8月3日	坂町災害復旧ボランティア	3人
8月4日	坂町災害復旧ボランティア	3人
8月6日	坂町災害復旧ボランティア	3人
8月9日	坂町災害復旧ボランティア	3人
8月10日	呉市安浦町復旧ボランティア	3人
8月20日	呉市安浦町復旧ボランティア	3人
8月28日	坂町災害復旧ボランティア	2人
8月30日	坂町災害復旧ボランティア	2人
8月31日	呉市安浦町復旧ボランティア	3人
9月13日	坂町災害復旧ボランティア（災害ごみ分別指導）	6人
9月22日	坂町災害復旧ボランティア（災害ごみ分別指導）	5人
計 22 回		83人

(2) 義援金による支援

中国新聞社会事業団を通じて被災者へ 100 万円、関連団体から見舞金として受け取った 226 千円を、建物 1 階が完全浸水した本郷中央病院へ送った。

(3) 避難所での支援

避難所での生活が継続している被災者を対象に、エコノミー症候群の予防や災害復旧作業の疲労回復を目的として、ストレッチボール（ラヴァボール・ラヴァボールミニ）を使用したボールエクササイズを開始し、坂町小屋浦地区の避難所を中心に 5 箇所 7 回実施した。なお、ストレッチボールは、J-サーキット株式会社と当協会が 100 セット寄贈した。

(4) 共助井戸水の水質検査

広島県との「災害時の遊休井戸等共助利用に係る水質検査に関する協定」に基づき、7月9日から県内各市町の共助井戸水の無償での水質検査を開始し、8月14日に広島県の災害対策本部が解散するまでに 491 検体の検査を実施した。

(5) 江田島市給水作業支援

株式会社水みらい広島が実施している江田島市の給水作業において、7月14日～16日の3日間、延べ9人の職員が給水作業の支援を行った。

(6) 士業連絡会の社会貢献への参加

日本技術士会の応援要請を受け、7月16、17、24日の3日間、各日1人の職員が安芸区のボランティア活動に参加した。

V. 関係団体事業・研修会への参加

1. 主な関係団体事業への参加

① (公財) 予防医学事業中央会

期 日	行事内容	場 所	出席者
7月12日	全国運営会議	東京都 グランドヒル市ヶ谷	豊後センター長
10月20日	全国運営会議・全国大会	新潟県 ホテルオークラ新潟	豊後センター長 浜田課長補佐
11月8日	予防医学事業推進中国・四国地区会議	広島県 ホテルグランヴィア広島	中元常務理事 武生診療所長 豊後センター長 他10名 (スタッフ含む)
2月28日 ～ 3月1日	全国業務研修会	島根県 松江エクセルホテル東急	大岡センター次長 青山主幹 柚山主任
2月7日 ～9日	技術運営会議および技術研究会議	茨城県 ホテルレイクビュー水戸	大岡センター次長 吉田課長 新里主査 藤江技師

② (公社) 全国労働衛生団体連合会

期 日	行事内容	場 所	出席者
6月13日	全国労働衛生団体連合会通常総会	東京都 浅草ビューホテル	大岡センター次長 吉田課長
11月20日	運営研究協議会	東京都 浅草ビューホテル	豊後センター長
2月15日	中国・四国地方協議会	岡山県 ピュアリティまきび	大岡センター次長 新里課長

VI. 事業報告の附属明細書について

30年度事業報告においては、一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則第34条に定める「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものはない。

関係法令（抜粋）

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 (平成十八年六月二日法律第四十八号)

第三款 計算書類等

(計算書類等の作成及び保存)

第二百二十三条 一般社団法人は、法務省令で定めるところにより、その成立の日における貸借対照表を作成しなければならない。

2 一般社団法人は、法務省令で定めるところにより、各事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び損益計算書をいう。以下この款において同じ。）及び事業報告並びにこれらの附属明細書を作成しなければならない。

3 計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書は、電磁的記録をもって作成することができる。

4 一般社団法人は、計算書類を作成した時から十年間、当該計算書類及びその附属明細書を保存しなければならない。

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則 (平成十九年四月二十日法務書令第二十八号)

第四款 事業報告

第三十四条 法第二百二十三条第二項の規定により作成すべき事業報告及びその附属明細書については、この条の定めるところによる。ただし、他の法令に別段の定めがある場合は、この限りでない。

2 事業報告は、次に掲げる事項をその内容としなければならない。

一 当該一般社団法人の状況に関する重要な事項（計算書類及びその附属明細書の内容となる事項を除く。）

二 法第七十六条第三項第三号及び第九十条第四項第五号に規定する体制の整備についての決定又は決議があるときは、その決定又は決議の内容の概要

3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。